

2023 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期日

2023 年 10 月 23 日（月）～10 月 26 日（木）

2. 会場

仙台国際センター
仙台市青葉区青葉山無番地
<http://www.aobayama.jp>

3. 研究発表

対面形式での口頭発表と、オンライン会議システムを用いたライブ形式のポスター発表を行う予定です。口頭発表はオンライン配信も行う予定です。また、口頭発表・ポスター発表とも、希望者は大会ウェブサイト上のオンラインポスター（講演資料など）の掲載も行います。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 23 日）午後：口頭発表

第 2 日（10 月 24 日）午前：ポスター発表・口頭発表，午後：小倉特別講義，表彰式，受賞記念講演

第 3 日（10 月 25 日）午前：ポスター発表，午前～午後：口頭発表

第 4 日（10 月 26 日）午前：ポスター発表，午前～午後：口頭発表

また、会期中に小倉特別講義連携セッションが開催されます。

5. オンラインでの大会参加にあたって

口頭発表は現地でのみ可能ですが、オンライン配信も行う予定です。ただし、オンライン配信に関わるトラブルの場合には現地会場の進行を優先します。小倉特別講義、表彰式・受賞記念講演もオンライン配信を行う予定です。今大会のポスター発表は、大会期間中の午前中の初めの時間帯にオンライン会議システムを利用して、ライブ形式で行います。

口頭発表・ポスター発表とも、発表者は任意で前回大会までと同様に発表資料を大会ウェブサイトに掲載し、質疑等を行うことができます。これを利用するには、発表者・聴講者に関わらず気象学会 Google Workspace (G Suite) アカウント（会員）または Google アカウント（非会員）が必要です。Google Workspace アカウント発行の申請は、会員サイト(<https://www.metsoc.or.jp/membersite>) より可能です。

6. 懇親会

今大会では懇親会は開催しません。

7. 大会ウェブサイト

本大会用の大会ウェブサイトを開設しています。大会参加手続き，講演申込み受付，大会プログラム，発表要領，大会発表規程などの詳細につきましては、大会ウェブサイトにて最新の情報を随時更新していきますので、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ (<https://www.metsoc.jp/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

本大会告示の後に掲載した「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合など、止むを得ない事情がある場合は、電子メールによる申込を受け付けます。

なお大会参加登録、参加費・投稿料支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。また、非会員の講演申込は専門分科会に限定していますのでご注意ください（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。

パソコン・タブレット等の端末，インターネット環境等は，各自でご準備ください。

1.1 オンラインによる申込

- ・ 締切：2023年7月12日（水）15時（日本時間）
- ・ 大会ウェブサイト参照し，指示に従って申し込みをして下さい。
- ・ 2022年度春季大会より，申込システムを変更し，株式会社メタップスペイメントが提供する「イベントペイシステム」を使用しています。従来とは仕様や操作が異なりますので，時間に余裕を持ってお申し込みください。
- ・ 申込みにあたり，個人情報を入力した上で，大会参加登録，参加費と投稿料の決済，講演申込と予稿送付を行います。これは講演者本人が行なってください。申込締切後，プログラム編成を支障なく進めるために，登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また，一度の参加登録で，講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・ 講演申込の前に，予め大会参加登録と参加費・投稿料の払込（クレジットカード決済・コンビニ決済・ページ決済のいずれか）を行って下さい。大会参加登録と参加費・投稿料の決済が行われていない場合，講演申込は受け付けられません。
- ・ オンライン決済の際には，個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・ 大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF（容量の上限は1MB）に限ります。
- ・ 大会予稿原稿を投稿する際には，ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・ 講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は，プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが，諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお，発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので，併せてご承知おき下さい。
- ・ 講演申込締切（7月12日（水）15時）までは，ウェブサイト上において，一旦申込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。
- ・ 締切後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため，なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 締切：2023年7月5日（水）
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい。）
- ・ 以下の4点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿（PDF形式）
 - ② 講演者氏名（漢字，ふりがな，ローマ字），所属，所属略称，会員番号，口頭発表希望の有無，連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス），講演題目，主・副キーワード，投稿料種別（投稿料A／投稿料B），その他必要事項を書いたもの（様式は自由）
 - ③ 郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）
 - ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書（フォーマットは以下に掲載）
https://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf
- 送付先：kouenkikaku2023a@googlegroups.com
（件名に「講演申込 2023a」と明記して下さい。）
- ・ 講演申込の前に，以下の要領に従って郵便振替によって参加費・投稿料を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」，
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ① 「2023年度秋季大会参加申込」と明記
 - ② 会員番号
 - ③ 投稿料種別（投稿料Aまたは投稿料B）
 - ④ 参加費・投稿料金額
 - ⑤ 合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に，住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・ 講演採択後は，講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも，すでに支払われた参加費・投稿料は返却しませんのでご注意下さい。

- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会 (kouenkikaku2023a@googlegroups.com) までご相談下さい。ただし、大会参加未登録の会員や非会員による代理発表は認められません。

1.4 松野賞候補申請について

松野太郎名誉会員のご寄付により、2018年に松野賞を日本気象学会に設立しました。

松野賞は、自身が主体的に行い、独創性が高く顕著な成果の得られた研究に関し、優れた発表をした学生を表彰するものです。

春季・秋季大会において、大会ごとに松野賞受賞者を選定します。松野賞は学生の主体性を尊重するという観点から、学生自らに松野賞候補者に申請いただきます。2023年度春季大会以降、講演申込時に、あわせて松野賞候補申請を行うこととなり、締切が早まりました。ご注意の上、該当者は奮ってお申込みください。

【申請できる方（発表時に以下のすべての条件に当てはまる方が対象です）】

- ・日本気象学会の会員であること
- ・学校教育法第1条の大学の学部生、大学院生またはこれに相当する者（高専の5年目以降の専修生、大学の学生、海外の学生は含まれます）
- ・日本気象学会2023年度秋季大会で発表する方
- ・これまで松野賞を受賞していない方

※申請後、発表時にこれらの条件を満たさなくなった場合は、申請が無効となります

【申請締め切り】

- ・2023年7月12日（水）15時（日本時間）

【備考】

- ・申請締切1か月以内に、松野賞候補者推薦委員会から申請受理の連絡をします
- ・申請締切から1か月が経過してもメールが届かない場合は、下記までご連絡ください
matsuno-award-jimu@metsoc.or.jp

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。なお、今大会では当日受付は行いません。申込システムの変更ともない、参加費を2重に支払ってしまう誤りが増えています。参加手続きの可否をご確認したい場合は、講演企画委員会 (kouenkikaku2023a@googlegroups.com) までお問い合わせください。

2.1 オンラインによる申込

2023年9月13日（水）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済・コンビニ決済・ペイジー決済のいずれか）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

2.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2023年9月6日（水）

（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。）

- ・以下の2点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールにてお送り下さい。

①参加者氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）、所属、所属略称、会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）、連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）（様式は自由）

②郵便振替払込受領証のコピー（次項参照）

送付先：kouenkikaku2023a@googlegroups.com

（件名に「参加申込 2023a」と明記して下さい。）

- ・参加申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費を納入して下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2023年度秋季大会参加申込」と明記
- ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
- ③参加費金額

- － 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字，ふりがな，ローマ字）・電話番号をみれなく記入して下さい。
- － 払込料金は本人負担でお願いします。

3. 参加費，投稿料

3.1 大会参加費，投稿料

- ・ 参加費と投稿料に分離されています。参加費には大会講演予稿集費が含まれます。
- ・ 参加費（予稿集費含む，消費税込，食事代（懇親会や昼食等）は一切含まれません）は以下の表の通りです。

種別	参加費
会員	5,000 円
非会員	9,000 円

- ・ 投稿料（消費税込）は以下の表の通りです。

投稿料		
種別	1 件	2 件
投稿料 A	6,500 円	11,500 円
投稿料 B	3,000 円	6,000 円

- ・ 投稿料の種別：
 - 投稿料 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし，学部生・院生は除く）
 - 投稿料 B：投稿料 A に該当しない講演者による投稿
- ・ 投稿料 A の 2 件目の投稿料は 5,000 円に割引されます。

III. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。

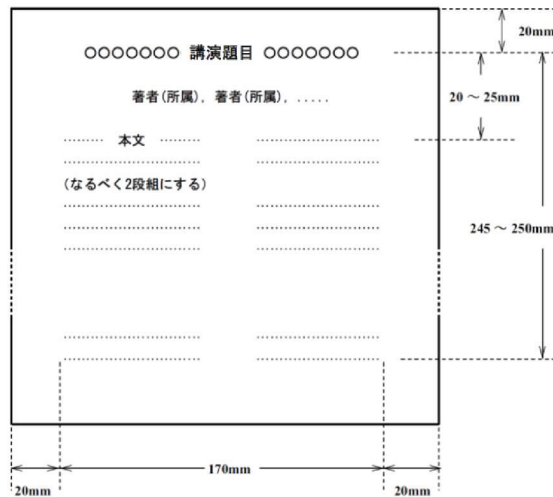
3. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし，上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目，その下に著者と所属を書き，本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。推奨テンプレートが大会ページにありますのでご利用ください。

(https://www.metsoc.jp/default/wp-content/uploads/2017/12/MSJ_Abstract-Template_v4.doc)

4. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4判用紙による大会予稿原稿の作成要領

IV. 研究発表要領

1. 研究発表の概要

研究発表は、対面形式での口頭発表とオンライン会議システムを用いたライブ形式のポスター発表を予定しています。口頭発表はオンライン配信も同時に行う予定です。ただし、口頭発表は現地でのみ可能です。また、口頭発表・ポスター発表とも、希望者は大会ウェブサイト上での講演資料の掲載も行います。

2. 発表件数の制限

1講演者あたりの発表件数は2件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。2件の口頭発表を申込まれた場合、希望通りのセッションに組込むことが出来ない場合があることをご了承ください。

3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭／ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振分けを行います。講演方法および講演日程については9月上旬に講演者に連絡する予定です。

4. 一般口頭発表

一般口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は原則口頭発表となります。
- ・専門分科会の各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込締切日は一般発表と同じ（オンライン申込は7月12日（水）、電子メール申込は7月5日（水））です。
- ・専門分科会に申込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申込まれた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表

今大会のポスター発表は、オンライン会議システム（zoomを予定）を利用して、大会期間中の午前中の初めにライブ形式で行います。講演者ごとにオンラインのブレイクアウトルームを設け、聴講者は自由にミー

ディングルームを移動しながら講演者と議論を行います。なお、発表および聴講に必要な PC、通信環境等は各自で準備をお願いします。詳細については大会ウェブサイトにて随時公開していきますので、適宜ご確認ください。

7. ウェブサイト上での講演資料の掲載

今大会でも最近のオンライン大会同様に大会ウェブサイト上に講演資料の掲載を行います。講演者は講演資料 (PDF や Google スライド, PowerPoint, 講演動画等) をインターネット上の所定の場所にアップロードし、運営側が大会ウェブサイト上でそれを公開します。聴講者はそれを閲覧し、コメントを記入することで、講演者と議論することができます。なお、講演資料の掲載は任意です。

8. 口頭発表における機器の使用について

現地開催での口頭発表 (専門分科会を含む) では、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。

PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。

- ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクターのほか、HDMI ケーブルを準備します。HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC を準備ください。
- ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
- ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。
- ー口頭発表のスライドと音声はオンライン配信されます。オンライン配信に関わるトラブルの場合には現地会場の進行を優先します。

9. その他

- ・発表に使用する PC の OS やウェブ会議ソフト、ブラウザは、最新のものにアップデートすることを推奨します。
- ・発表資料のアップロード、公開、質疑応答、ウェブ会議システムの利用に関する詳細は、後日、大会参加者に通知いたします。質問は、講演企画委員会 (kouenkikaku2023a@googlegroups.com) までご連絡ください。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2023 年度秋季大会では下記の通り、9 件の専門分科会が開かれます。

1. 「中層大気研究この 10 年と今後の展望」

趣旨：2015 年春季大会において、中層大気科学を中心に据えた 2 つの専門分科会「中層大気研究の最前線」・「ブリューワー・ドブソン循環研究の現状と今後の展望」を同時開催した。それ以降、2016 年の QBO disruption, 2019 年 9 月の南半球突然昇温, 2022 年 1 月の Hunga-Tonga 火山噴火に伴う大気波動など、これまで報告されていないような中層大気の大気現象が複数発生した。また、2015 年当時と比べ、成層圏・中間圏を含む再解析データや中層大気(化学)モデルの精緻化、対流圏の予測可能時間延長についての知見の蓄積、対流圏-成層圏・成層圏-中間圏-下部熱圏の結合過程の理解の深化、スーパープレッシャー気球・高高度気球など新たな観測への挑戦など、中層大気科学は多方向に発展しており、様々な要素を考慮し包括的な理解を得ることが望まれている。本分科会においては、中層大気研究の最新成果を集約するとともに、SPARC (Stratosphere-troposphere processes and their role in climate) の WG の活動・研究成果を共有し、今後の展望について、気象学に関わる広範な分野の研究者と議論したい。

世話人：佐藤薫 (東京大学大学院理学系研究科)、堀之内武 (北海道大学地球環境科学研究院)、江口菜穂 (九州大学応用力学研究所)、河谷芳雄 (北海道大学地球環境科学研究院)、木下武也 (海洋研究開発機構)、坂崎貴俊 (京都大学大学院理学研究科)、高麗正史 (東京大学大学院理学系研究科)

2. 「観測・理論・数値シミュレーションによる惑星大気研究の進展」

趣旨：惑星大気に関する観測的・理論的・数値的な研究の進展が著しい。観測的研究に関しては、様々な探査機・測器により新たな観測データが蓄積されてきている。金星探査機「あかつき」は 7 地球年間以上の観測

に成功し、長期変動も捉えつつある。火星周回軌道から気象や大気組成の連続観測も行う **Martian Moons eXploration (MMX)** 計画は打ち上げを来年に控え、最終的な準備が進められている。地上および宇宙望遠鏡を用いた系外惑星等の観測も精力的に行われている。これらの観測的研究成果を受けて、スーパーコンピュータを用いた高解像度実験やデータ同化など、理論的および数値的な研究も着々と進められている。本分科会は、これらの多角的な研究成果を持ち寄り、惑星大気に対する包括的な理解を目指した今後の進展を展望する機会としたい。

世話人：高橋芳幸（神戸大学）、杉本憲彦（慶應義塾大学）、今村剛（東京大学）、石渡正樹（北海道大学）、中川広務（東北大学）

3. 「くらしと気象 ～変わりゆく気候に適応するために～」

趣旨：人々のくらしはその地域の気候と密接な関係があり、近年顕在化している地球温暖化によって変容していくと考えられる。東北地方を例にとれば、将来、2022年8月に発生したような極端降水の頻度増加、コメやリンゴといった地域経済を支える農作物の品質変化や、雪を資源とする観光業への影響が挙げられる。このような気候変動に適応していくためには最新の科学的知見だけでなく、その地域の気象やくらしに根差した視点を絡めて策を検討することが必要である。

本分科会では、人々のくらしに関わる気象現象・地域気候や、気候適応に向けた取り組みについての発表を、気象予報士・実務者・研究者などから幅広く募集したい。具体的には、観測データや数値モデルを用いた気象学的な研究はもとより、防災・農林水産・観光・インフラなどからの検討を絡めた研究を歓迎する。本分科会が、気候変動への適応策を各方面で検討する有用なヒントになることを期待したい。

世話人：山下堯也（日本気象予報士会）、白川栄一（日本気象予報士会）、小関英明（日本気象予報士会）、岡田登志恵（日本気象予報士会）

4. 「予測可能性から制御可能性へ」

趣旨：気象の予測可能性はこれまで盛んに研究されており、気象予測の精度や不確実性の定量化は一貫して向上してきた。これにより、予測と対となる制御という観点で、気象の制御可能性について研究する準備が整ってきたといえよう。2022年には内閣府が主導するムーンショット目標の一つとして、2050年までの極端風水害の制御を目的としたプログラム（ディレクター：三好建正）が開始し、その機運が高まりつつある。極端気象は一般にカオス性が強く、カオス的な性質を利用することで、小さな介入が大きな効果を生む。これにより、極端気象の発生抑制や、弱化、位置の変化など引き起こすといった制御が考えられるかもしれない。本分科会では、2022年から現在までの進捗も踏まえ、予測可能性の理解を深めるとともに、これを前提とした制御可能性の理論、気象改変技術、その他気象制御可能性に関連する話題について議論を行う。

世話人：三好建正（理化学研究所）、中澤哲夫（東京大学）、高玉孝平（科学技術振興機構）

5. 「衛星搭載レーダ観測による雲・降水科学の新展開」

趣旨：人工衛星による雲・降水科学、特にレーダを用いた研究、は近年大きな展開を見せている。全球降水観測計画（GPM）主衛星搭載の二周波降水レーダ（DPR）では熱帯降雨観測衛星（TRMM）が観測する熱帯域を越えて中高緯度域までカバーし、固体降水を含む雲降水物理量の推定へと発展している。雲観測については2024年打上げ予定のEarthCARE衛星搭載の雲プロファイリングレーダ（CPR）に世界初のドップラー速度計測機能が付加されることにより雲物理と力学を結びつける数値モデリング研究やエアロゾル・放射収支研究への発展が期待できる。また、GPMの後継として降水観測ミッション（PMM, 2028年度打上げ）もJAXAで立ち上がりつつある。PMM搭載レーダにも降水レーダとしては初のドップラー速度計測機能が付加される。本専門分科会ではこれらの衛星プログラムを概観し、他衛星・センサとのシナジーも含めた雲・降水科学研究の今後の発展や期待される成果について意見交換を行う。

世話人：高橋暢宏（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、高薮縁（東京大学大気海洋研究所）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、岡本創（九州大学応用力学研究所）、久保田拓志（宇宙航空研究開発機構）

6. 「気象衛星ひまわり10号の利用可能性」

趣旨：気象衛星ひまわり8・9号の後継衛星であるひまわり10号については、2023年にその製作を開始し、2029年度めどに運用を開始することを目指している。10号には、可視赤外イメージャとハイパースペクトル赤外サウンダの搭載を計画している。イメージャについては、8・9号の観測機能を維持・拡張したものとする予定である。また、ひまわりに初めて搭載する赤外サウンダは、水蒸気や気温の鉛直プロファイルを観測することにより、線状降水帯や台風などの予測精度向上への貢献が期待される。ひまわりは気象業務だけでなく、国民にひろく利用されており、我が国の重要な社会資本となっている。このため、10号に

においても、オールジャパンで最大限の利用を図っていくことが求められている。本会では、将来得られる10号データの様々な利用方法に関する講演を広く募集する。

なお10号の諸元については、気象学会春季大会等で気象庁から報告される予定である。

世話人：別所康太郎（気象庁気象衛星課），今須良一（東京大学大気海洋研究所），岡本幸三（気象研究所気象観測研究部），中島孝（東海大学），本多嘉明（千葉大学）

7. 「極端気象の理解と将来予測の不確実性低減に向けた専門分科会」

趣旨：近年、世界各地でこれまでにない大雨、干ばつ、熱波などが頻発し、人間社会はすでに気候危機を目の当たりにしています。気候の将来予測には、世界の気候モデルが利用されますが、モデル間の気候感度や大循環予測のばらつき、極端気象の再現の難しさなどから、極端気象の将来予測には大きな不確実性が伴います。本分科会では、極端気象の仕組みや気候変動の影響についての研究、CMIPモデル群から物理的理解に基づき予測不確実性の低減を目指す研究、その情報を温暖化影響評価研究者、政策決定者、国民等のステークホルダーへ適切に伝達するための研究について成果を持ち寄り議論することを目的とします。環境研究総合推進費課題「極端気象の将来変化に関する物理的理解に基づく予測不確実性を低減した情報伝達」を提案母体としますが、これまでの関連研究を振り返るまとめや将来への期待なども歓迎します。広く会員の皆様からのご投稿とご参加を期待します。

世話人：高薮縁（東京大学大気海洋研究所），中村尚（東京大学先端科学技術研究センター），堀之内武（北海道大学），仲江川敏之（気象庁気象研究所），塩竈秀夫（国立環境研究所）

8. 「気象・気候データの産業利用」

趣旨：数値天気予報や再解析等の気象・気候データは現業気象機関や研究機関から日々生成され、提供されている。これらのデータは重要な研究基盤となっている一方、その産業利用は限定されたものに止まり、現状ではデータが持つ潜在的な価値が発揮されているとは言い難い。その要因として考えられるのは、巨大なデータサイズや多種多様なフォーマットだけでなく、利活用事例の認知が不足しているためだと考えられる。本分科会では、利用例を集め社会に便益をもたらすための利用価値について議論したい。

世話人：中村尚（東大先端研），隈健一（東大先端研），山崎剛（東北大），吉野純（岐阜大），野中正見（JAMSTEC），鈴木靖（気象協会），安部大介（WNI），西村浩一（大阪ガス），竹内綾子（気象庁），榎本剛（京大防災研・JAMSTEC）

9. 「局地風研究の現状と将来」

趣旨：局地風は、地形や熱的な影響で駆動される風であり、人間生活とも密接な関わりをもっている。また、ある特定の地域で吹くため、地方風ともよばれており、強風による被害をもたらすがゆえに恐れられている地域もある。しかしながら、この局地風は、天気図で表されるような総観場では説明しづらく、予測も困難である。そのため、このような局地風に対して、地上気象観測やウィンドプロファイラーによる上層風観測に加え、数値シミュレーションによる解析など、様々な手法で研究がなされてきた。その一方で、局地風は強風であるため、風力発電に対して潜在的なエネルギー源となる可能性を秘めている。本専門分科会では、局地風に関する情報を共有し、現状と今後の課題について整理するとともに、情報交換の場とする。また、これから局地風研究を始める若手の参加を期待したい。

世話人：重田祥範（公立鳥取環境大学），日下博幸（筑波大学），西暁史（防衛大学校），奥勇一郎（兵庫県立大学），大橋唯太（岡山理科大学），寺尾徹（香川大学），渡来靖（立正大学）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では専門分科会に申込まれた講演が世話人により採用された場合に限り、非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかった場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は、専門分科会で不採用になったとき、世話人と講演企画委員会の判断により一般発表への振替が行われます）。講演企画委員会としては、大会での講演発表を希望される方には、気象学会会員になって頂くようお願い申し上げます。

VII. 団体会員、賛助会員の大会参加について

団体会員、賛助会員は、2名まで個人会員と同等の扱いで大会に参加することができます。講演申込の際には、予稿原稿の著者欄に下記のように団体を記述してください。

○○会社（講演者*、共著者、・・・）

また参加申し込みの際には、会員番号は団体会員・賛助会員の番号を、所属略称の末尾に「・団体会員」または「・賛助会員」を付記するようにしてください。

VIII. 研究会活動の支援について

大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動（一般の会員が自由に参加できるもの）に対し、支援を希望する方は、次の事項を明記した原稿を、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2023a@googlegroups.com）へお送り下さい。なお、現地会場を夜間に利用する場合、会場使用料は研究会の主催者負担となります。夜間の現地会場の利用料等を確認したい場合は、事前に上記までご連絡ください。

申込期限：2023年7月12日（水）

記入事項：

1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 日時・開催方式（現地会場の利用の有無・ウェブ会議等）
4. 予想参加人数・会場マイク・プロジェクタ等使用の有無（現地開催の場合のみ）
5. 趣旨
6. プログラム
7. 希望する支援内容（予稿集への案内掲載、現地会場利用等）

IX. 大会期間中の保育支援について

大会期間中の会場近隣の保育施設として、一般社団法人のここにサポート <https://niconico-s.com/>（ベビーシッターサービス）を利用いただけます。また、学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf

上記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局へお願いします。

X. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

日本気象学会では、若手研究者、転職・再雇用希望者のキャリア形成支援のため、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

学生、若手研究者、転職・再雇用希望者で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演タイトルの左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 一般発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

XI. リクルートブースの設置について

日本気象学会では、若手研究者、転職・再雇用希望者のキャリア形成支援のため、企業の就職担当者と就職を希望する参加者が直接情報交換する場として、展示会場内にリクルートブースを設置する予定です。大会開催期間を通して展示会場は利用できます。参加企業名およびブース開設期間など詳細については大会プログラムとともにお知らせする予定です。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。

2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。

2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。

5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。

- (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
- (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
- (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
- (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、
- (5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、
- (6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目，大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は，速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には，大会参加料は返却しない。